



<写真撮影地は、右地質図の▼2、黒生漁港\_\_倉庫脇の草地>

- ▼ 中生代・ジュラ紀には、将来は日本列島の部品となる島弧が、古太平洋上の南中国地塊近辺の南半球にあり、この島弧の北上は白亜紀とされる。
- ▼ この島弧は、古太平洋プレートが沈み込む海溝に面していた。
- ▼ 銚子半島を含む関東山地は、ジュラ紀に、この島弧への付加体の一部として成長した岩体を基盤にしている。  
銚子には、このうち、愛宕山や犬岩・千騎ヶ岩など、約1億5000万年前の岩体が露頭する部分があり、これらは愛宕山層群に属する。
- ▼ 海洋プレートが沈み込む時の付加体には、海洋プレート上面が削り取られて陸側に付加したもの、嵐等により海面下の大陸斜面が崩落して陸側に付加したもの、双方がメランジュ状に混合したもの、の三者がある。
- ▼ 4000mを超える深海底に堆積していた、放散虫の殻から成る地質をチャートと呼び、古生代～中生代のものが知られている。  
チャートは石英分に富み、黒曜石より硬い。
- ▼ 黒生チャートは、古太平洋プレートに乗って海溝に到達し、ジュラ紀に島弧への付加体となった。黒生チャートも、愛宕山層群に属する。
- ▼ 古生代～中生代の境界を成す生物大絶滅時代には、海底の酸素欠乏でチャート内鉄分が酸化せず、ペルム紀末からトリアス紀初めのチャートは緑味を帯びる。その後のチャートは、酸素の供給再開により、チャート内鉄分が酸化して赤味を帯びる。黒生チャートには双方の色味のものがある。

<右地質図の地質色分けの凡例>

- A. 愛宕山層群、B. 銚子層群、C. 夫婦ヶ鼻層、D. 名洗層、E. 飯岡層、F. 香取層&関東ローム層、G. 沖積層

